

東京
23区

すごい学校



ここがすごい! 小中一貫 港区立小中一貫教育校 お台場学園

小中合同の部活動や児童会活動も。 ふれあいの場が多い小中一貫教育

幼小中合同の大運動会



小中合同の部活動

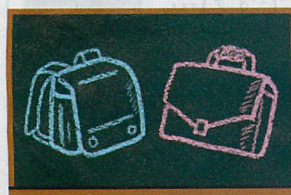


幼保対象のプレスクール

小学生と中学生が同じ校舎で生活する施設一体型校舎の小中一貫校。9年間を4-3-2制で区切り、算数での先取り学習や高学年での一部教科担任制などを導入している。給食の時間は全学年がランチルームを利用。小学校児童会と中学校生徒

会を統合し、5年生から中学の部活動に参加できるなど、異学年交流の機会が多いのが特徴。また、隣接する幼稚園も交えた合同大運動会、幼稚園や近隣の保育園の園児を招待するプレスクールなど、幼保小中の交流も実施されている。

写真上は小中合同で行われるセーリングヨット部の活動の様子。子どもたちが、学校の目の前にあるお台場の海でヨットに乗れるよう、船の操作や風の捉え方を学びながら練習を重ねている



ここがすごい! 小中一貫 杉並区立小中一貫教育校(仮)高円寺学園

小中の学びの連続性を重視した 2020年新設の小中一貫教育校

小中連携校として交流を深めていた杉並第四小学校・杉並第八小学校・高円寺中学校の3校が統合し、小中一貫教育校「(仮)高円寺学園」が2020年に誕生する。これまでは、児童が中学校を訪問して授業を体験したり、中学校教員が小学校で学習指導をしたりするなどの取り組みを行ってきた。小中一貫教育校への移行後も6-3制を維持する。一方、開校に合わせて建設が完了する新校舎では、小中のふれあいの機会を設けるため、交流ホールやランチルームなども用意している。

充実した機能を備えた校舎



ICT教育に備えた、タッチパネル付き大型ディスプレイを全普通教室に設置。小中の交流スペースとして、広さ340㎡の交流ホール、160人収容のランチルームなどが用意される。施設を利用したふれあいのイベントも予定

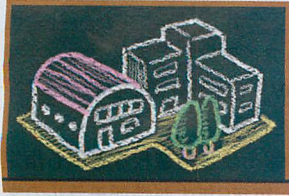
(仮)高円寺学園の新校舎デザイン



12

2020年に学習指導要領の改訂やオリンピック・パラリンピックを控え、教育環境は変化を続けている。

英語教育拡充やプログラミング教育の導入など、時代の流れに応じて教育も進化。今まで以上に、未来を切り開いていける資質や能力が要求される時代だからこそ、特色ある取り組みを実践している公立小学校を紹介しよう。



ここがすごい! 校内設備 千代田区立昌平小学校

児童館などが一体となった複合施設 限られた敷地を活かした充実の環境



床暖房付き室内プール



開閉ドーム型の屋上校庭

昌平童夢館に入っている神田児童館は、千代田区民を優先的に受け入れており、小学生以上は1人でも利用可能。遊戯室、図工室、図書コーナーなどがワンフロアにあり、自由に遊ぶことができる



併設の神田児童館

都心の街ナカという限られた敷地を活かすべく、校舎が児童館、保育園、幼稚園などと一体化した「昌平童夢館」という複合施設となっている。屋内プール、雨の日も利用できる開閉ドーム型の屋上校庭など運動スペースも充実。幼小合同

の音楽会など、交流も行われている。施設内の神田児童館や区立図書館は、児童は放課後も敷地から出ずに利用可能(保護者の許可が必要)。児童館では一時預かり保育や子育て相談など、親子を対象にさまざまな催しを実施している。

ここが Point

最近よく聞く小中一貫教育って?

自由度の高いカリキュラムを 組める新たな教育スタイル

学校教育法などの改正によって2000年代にスタートした「小中一貫教育」。既存の小中学校などを組み合わせる「小中一貫校」と、2016年に新設された9年一貫の新しい学校の形である「義務教育学校」がある。中学校の学習内容を小学校段階で先取りできる、学習指導要領の特例措置があり、学校ごとに独自の年制と自由度の高いカリキュラムを組んで教育課程を編成する。現在、23区内の施設一体型の小中一貫校と義務教育学校は19校で、今後も新設予定だ。

小中それぞれが独立した学校として「6・3制」を維持する「小中連携校」も23区のほぼすべてにあり、地域や学校に合った連携が行われている。

小中一貫校・義務教育学校

小中一貫校には主に施設一体型と分離型がある。「6・3制」だけでなく、それぞれの学校で年制を定められるのが特徴。品川区は6校すべてが義務教育学校だ。施設一体型は、23区では2023年までに12区22校に増加予定(義務教育学校含む)

年制 6・3制、4・3・2制、5・4制、5・2・2制

校舎 施設一体型

小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置されている(小学校と中学校の校舎が渡り廊下等でつながっているものを含む)



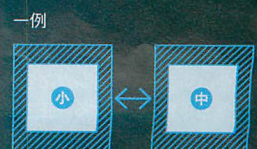
小中連携校

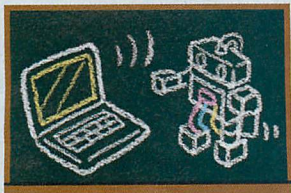
小学校と中学校が独立した形式(6・3制)を維持しながら、一部授業や学校行事などを連携して行う。中学校教員が小学校で授業を行ったり、児童が中学校へ訪問し、中学生徒が付きながらブレ授業を行なうなど、各地域でさまざまな実践がなされている

年制 6・3制

校舎 施設分離型

小学校と中学校の校舎が、隣接していない異なる敷地に別々に設置されている





ここがすごい!

ICT教育

文京区立湯島小学校

情報モラルの基礎授業から、プログラミング教育まで



ソニー・グローバル・エデュケーション提供の「KOOV」はブロックとプログラミングを組み合わせた教材。左の「肩たたきロボット」は、児童が立案から組み立てまでを実際に行った

都が指定する2017・18年度のプログラミング教育推進校。総合的な学習の時間のなかで「湯島情報科」を位置づけ、プログラミング教育や情報モラルに関する授業を行う。今年度は5年生が福祉の現場で役立つアイデアを考え、ブロック型教材「KOOV」を組み立ててプログラミングする授業を行う。

過去に情報モラル推進校などにも指定されており、毎年6年生が情報モラルの学習成果を「湯島小eルール」として次年度に引き継ぐのが伝統となっている。



ここがすごい!

ICT教育

中野区立緑野小学校

未来社会に向け、最先端のテクノロジーを活用した学びを展開

ICT機器の活用方法を通じてキャリア教育を実践する緑野小学校。今年度は6年生の総合的な学習の時間にドローンを導入し、実際に操縦する体験学習から、ドローンに関する知識や、ドローンビジネスの可能性まで幅広く学習。自分たちの生活のなかでどのように活用できるかを話し合っ、ドローンの空撮映像を使った学校紹介VTRを作成した。そのほか、5年生の音楽では、「ボーカロイド」により本格的な音楽を制作するなど、さまざまな取り組みを実施している。



写真上はドローン操縦の様子。ドローンを動かすためのプログラミングも児童が組み、何度も試行錯誤を繰り返す。最先端のテクノロジーに日常的に触れ、未来社会で活躍できる人材を育成するのが狙いだ



ここが Point

プログラミング授業が教科に。ICT教育のイマ

必修化のプログラミング教育 具体的には何を?

2020年の新学習指導要領では、プログラミング教育が必修化される。「プログラミング」という教科が設けられるわけではなく、算数・理科などの授業時間で取り上げられる見込みだ。どの教科・どの単元で行うかは学校ごとに決定する。

例えば算数では、タブレットやパソコンを使い、プログラミングで正多角形を描く授業が予定されている。正多角形のもつ性質への理解と、プログラミングへの理解の両方を深める目的だ。

先駆けで行う小学校 どんな取り組みをしている?

東京都や各区はそれぞれ推進校などを定め、必修化に先駆けた授業を行っている。湯島小学校や緑野小学校の事例のように、民間企業や団体と連携するケースが多い。右表は2017年度に外部機関がプログラミング教育の実践に協力、連携を行った例。そのほか、小学校によってはタブレットを使った調べ物学習や、ICT機器を使わないプログラミングの基礎学習など、生徒の主体性を養うことを目的としたアクティブ・ラーニングを実践するケースもある。

プログラミング教育に連携する企業と主な取り組み (2017年度)

連携企業・団体	▶テーマ 提供ツールと取り組みの一例
ヤマハ	▶芸術作品を音楽で表現する 「ボーカロイド(教育版)」音声制作ソフト。タブレットを使用し、絵画の感想を児童が音楽として表現することに挑戦。制作した音楽は展覧会で使用した
アーテック 東京支社	▶プログラミングの基礎を学ぶ 「アーテックロボ」ブロック遊びをしながらロボットを作成。センサーやモーターも組み立て部品として入っており、プログラミングソフトで自由に動かす事が可能
ソニー	▶日々の生活でプログラミング技術が役立っていることを知る 「MESH教材」無線でつながるセンサーなどのブロックを専用アプリとつなぐことで、インターネットなどを活用した仕組みをつくれるプラットフォーム
NPO法人 東京学芸大学 こども 未来研究所	▶STEM教育 「プログラミング教育に特化した小学校向けSTEM教育コース」身近にある「信号機」をテーマに、安心・安全な信号機を考える。信号機がプログラミングで動くことを知り、よりよい信号機とは何かを考えさせる機会を与える



ここがすごい!

英語教育

品川区立芳水小学校

児童が楽しく「学び」を実感する 独自の英語教育

英語授業中の風景



カードを使った反復練習



アルファベット1文字が書かれたカードを並べて単語の発音練習を行う「ボトムアップ」の授業。複数のアルファベットを聞いて、素早く単語をつくることで、その後の単語を読む力や、読解力、発音の育成につながる

青山学院大学のアレン玉井光江教授が提唱する英語教育理論に基づき、独自の英語教育を行う芳水小学校。読み書きの力を少しずつ積み上げていく「ボトムアップ」の活動と、児童が親しみやすい物語をジェスチャーと易しい英語で語っていく「トップダウン」の活動、2つの学習方法で日々の英語力を育成する。後者は「ストーリーベースドカリキュラム」と呼ばれる。ただ英語を暗記するのではなく、文脈から意味を理解し、豊かな英語を身に付けることができるという。



ここがすごい!

国際交流

千代田区立お茶の水小学校

国際交流でロシアの学友と交流 さまざまな体験学習で文化を学ぶ

オリンピック・パラリンピック教育の一環である「世界ともだちプロジェクト」で、ロシアをはじめとする5カ国の文化や言語を学習するお茶の水小学校。2016年から、ロシア大使館学校の児童・生徒の訪問団を学校に招待し、日本文化を紹介するなどして親交を深めている。12月にはロシアからピアニストを迎え、校内でコンサートを開催。今年度はJAXAの協力を得て、日口の子もたちが、国際宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士と交信するイベントなども予定。

宇宙ステーションとの交信



宇宙ステーションとのリアルタイム交信イベントは、日口間における人材交流の拡大に向けた方策のひとつ。宇宙ステーションに滞在する日本とロシアの宇宙飛行士と交流し、児童は宇宙への関心を深めた



ロシア大使館学校との交流

ここが Point

グローバル人材を育てるための 東京独自の英語教育

学習指導要領改訂で変わる 英語教育の内容とは?

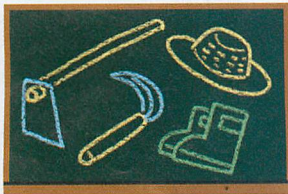
学習指導要領の改訂では、英語教育にも変化が。これまでは5・6年生のみ、年間35時間で行われていた「外国語活動」だが、新学習指導要領では3・4年生が年間35時間の「外国語活動」、5・6年生は年間70時間の「外国語」が教科として必修となる。これに先駆けた英語教育は全国で行われているが、なかでも東京オリンピック・パラリンピック開催を控える東京都は、「東京グローバル人材育成計画 '20」を発表。国際交流や英語学習に重点的に取り組んでいる。

オリンピック・パラリンピック を見据えた新たな学習施設

2018年9月6日にオープンした「TOKYO GLOBAL GATEWAY」(江東区・青海)は、東京都教育委員会と民間企業が提供する体験型の英語学習施設。学んできた英語を活用して、空港やホテルなどの海外生活を疑似体験する「アトラクション・エリア」と、映像制作やビジネス・プログラムなどに英語で挑戦する「アクティブイメージン・エリア」があり、小学生から高校生まで、英語レベルと発達段階に応じたプログラムが楽しめる。



総面積約7000㎡の「TOKYO GLOBAL GATEWAY」。写真は施設外観と各エリアの内観。都内・都外を問わず、学校利用では半日コースと1日コース(宿泊コースもあり)、一般利用ではプログラムごとに受け付けている。英語話者のサポートを受けながら、英語体験が楽しめる



ここがすごい!

栽培活動

新宿区立戸塚第二小学校

児童、教職員と地域で取り組む 伝統ある栽培活動



大根の収穫



地域住民による土づくり

「戸二農園」の取り組みは2005年にスタート。収穫した大根は各家庭に持ち帰り、親子で調理して新鮮な大根を味わい、調理の過程をレポートにまとめる

高田馬場駅からすぐの立地にある戸塚第二小学校。敷地内にある全長約50mの「戸二農園」で、総合的な学習の時間や理科の授業を利用し、作物の栽培に取り組んでいる。夏はきゅうりやナスなど、学年ごとに異なる夏野菜を栽培・収穫。収穫した野菜を使ってカレーをつくり、近隣の幼稚園児を招いてカレーパーティーを開催する。冬は児童が1人1本の大根を栽培するのが恒例だ。土づくりや畑の整備などは、地域住民と教職員が連携してサポートしている。



ここがすごい!

環境教育

品川区立山中小学校

バイオガスの生成に挑戦 体験型の環境教育で運動会に聖火を灯す

山中小学校では、東北大学大学院・多田千佳准教授による指導のもと、5年生の授業で「バイオガス」をつくる体験学習を実施。給食の残菜でバイオガスと液肥を生成する実験から、循環型社会をつくるカギとなる、環境に優しいエネルギーについて学ぶ。授業でつくったバイオガスは運動会の「聖火」として利用。この取り組みは、全ての区立小・中・義務教育学校を対象とした「品川コミュニティ・スクール」の一環で、保護者や地域ボランティアの協力を得て行われる。



外部講師によるメタンの講習

出前授業では、前日の給食の残菜をミキサーで碎き、牛の第一胃（ルーメン）に含まれる微生物を入れてバイオガスを生成。捨てられるものがエネルギーや資源として再利用できることを知るのが目的だ



点灯した聖火



生ゴミをミキサーで碎く

ここが Point

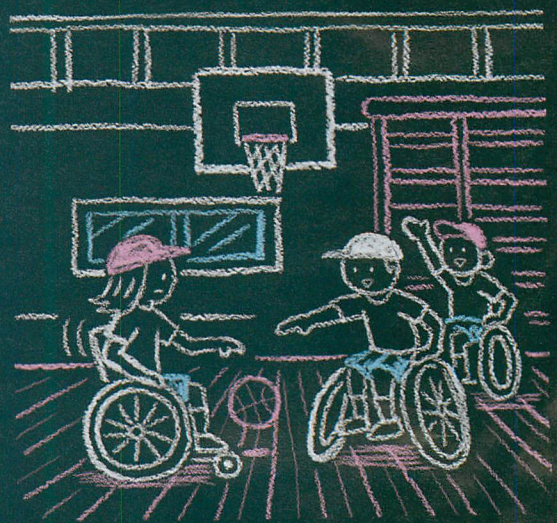
2020年の五輪開催に向けて 体験教育のプロジェクトが進行中

オリパラ教育として 4つのプロジェクトを推進

東京都はオリンピック・パラリンピック教育に重点的に取り組んでおり、4つのプロジェクトを推進している。このうち、環境教育を目的とした「東京ユースボランティア」、体験教育の「夢・未来プロジェクト」「スマイルプロジェクト」を実施する小学校は多い。この2つの教育は新学習指導要領の重点項目である「SDGs（持続可能な開発目標）」にも当てはまるもの。児童が身の回りから問題意識をもつことで、学びの意識をより主体的なものとするのが目的だ。

「夢・未来プロジェクト」と 「スマイルプロジェクト」

「夢・未来プロジェクト」は、オリンピック・パラリンピアンといったアスリートが子どもたちと直接交流する取り組み。そのうちアスリートが学校を訪問し、特別講演などを行う「YOKOSO」プログラムは、今年度は公立小学校では137校で実施予定。「スマイルプロジェクト」は、障がい者スポーツの観戦や体験を通じて特別支援学校と地域の学校が交流するもの。ポッチャや車いすバスケットボールといったパラリンピック競技を学習、体験する。





ここがすごい!

地域交流

板橋区立成増小学校

地域住民らによるボランティアが 寺子屋事業や体験学習をサポート



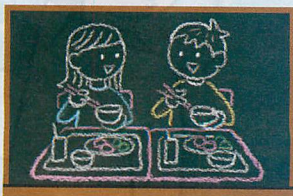
レインボー図書館



企業による体験学習

毎週水曜日の「レインボー図書館」では、読み聞かせなどの催しが行われている。写真上は企業との連携で行われた体験学習の様子。アイスクリームをテーマに専門家の講義を受け、児童が商品企画のアイデアを出し合った

成増小学校では、地域コーディネーターを中心に、保護者や地域住民による「学校支援ボランティア」に力を入れている。放課後の学校図書館を子どもたちに開放し、学校支援ボランティアらと児童が交流する「レインボー図書館」、企業と連携した課外授業的な体験学習などを実施。学校開放協会が主催する「いきいき寺子屋」では、スポーツ、囲碁、将棋、民謡、パソコンなど12の活動が行われており、多くの児童が参加。地域の人々と交流を深めながら、楽しく学んでいる。



ここがすごい!

食育

台東区蔵前小学校

区内唯一の栄養教諭配置校の 食育プログラム

区内で唯一の栄養教諭配置校である蔵前小学校は、独自のプログラムに沿った食育授業が特色だ。6年生の家庭科では、給食を弁当箱に詰めて主食・主菜・副菜のバランスを学び、お弁当づくりや家族の食事づくりに挑戦する。また、適切な食事量を学ぶことを目的に、児童がカロリー計算しながら食べるものを選ぶカフェテリア形式の給食など、ユニークな取り組みも多数。給食レシピの配布、父と子の親子クッキングなど、家庭と連携した食育もしている。



給食を弁当箱に詰める学習

写真は「カフェテリア給食」と6年生の家庭科で行う、給食を弁当箱に詰める学習。そのほか絵本とコラボしたテーブルバイキング、東京の地場産物を使った給食など、給食の時間を利用した楽しい取り組みが多数



カフェテリア形式の給食



ここがすごい!

音楽

足立区立花畑西小学校

本格的な指導が魅力の金管バンド部 海外プロバンドとの共演も!



ニューヨークのバンドと共演



練習風景

今年、創設から131年の歴史をもつ「ニューヨーク・スタッフ・バンド」の指名を受け、来日公演のステージで共演。来年6月には日本のトップバンドが集う吹奏楽チャリティーコンサートへの出演も決定している

花畑西小学校の金管バンド部は、創部28年の歴史あるクラブ。東京都小学校アンサンブルコンテストで7年連続金賞を受賞するなど、多数のコンクールで実績を残している。放課後練習では週3回、専門の講師を招いてハイレベルな練習を行うほか、年に数回、ブラスバンドの本場であるイギリスから演奏家を招いてのレッスンも実施。年間で演奏する曲のレパートリーは80曲を超え、ニューヨークのプロ金管バンドと共演するなど、さまざまな場所で活躍している。

構成・取材・文/ブレンシップ(立花奈緒、植前大地) イラスト/山田タクヒロ デザイン/taraco design

記事の感想をお寄せください。商品券1000円分が100名に当たります。詳細は本誌ハガキ、または [スーモ 読アン](#) 検索